

競技注意事項

- 1 本大会は、2024年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会競技注意事項によって実施する。
- 2 受付について
 - (1)受付を競技場正面出入口に設ける。時間帯によっては場所を移動する場合があるので、その場合は本部に確認すること。
 - (2)各校（チーム）の引率教員（コーチ）は、競技場入場時に受付を済ますこと。（受付が済んでいない場合、選手は競技に出場できないことがある。）
- 3 アスリートビブス（ナンバーカード）、腰ナンバーカードについて
 - (1)本年度愛知陸協登録者は、登録アスリートビブスを使用する。
 - (2)アスリートビブスは胸と背にはっきり見えるようにつける。ただし、跳躍競技の競技者は、背または胸につけるだけでもよい。
 - (3)トラック種目に出場する競技者は、招集時に写真判定用の腰ナンバーカードを受け取る。ランニングパンツの右横に、明確に数字が読めるようにつけ、シャツなどで隠れないようにする。
- 4 ウォーミングアップについて
 - (1)事故防止のため、バトン、リレーマーカー、ポール以外は個人またはチームで持参した道具を使用しない。
 - (2)本部での許可がない限り、競技場内での逆走はしない。
 - (3)8:55までのトラックの利用は、ホームストレートはハードル練習のみとし、第4コーナーでのバトン練習やこの付近からの流しなどを禁止とする。バックストレートの利用は3～8レーンとし、1・2レーンは周回（長距離）用に空けておく。この時間でのスターティングブロックを使った練習はハードル競技のみとする。
 - (4)投擲および跳躍競技の練習についてはピットにおいて係員の指示のもと行うこと。
 - (5)競技中のバックストレートでのウォーミングアップは、競技に支障のない範囲でもよい。長距離の競技中は6～8レーンのみ使用してもよい。スタート時は走らない。大会本部や係員からの指示があった場合は速やかに従うこと。移動の際にはメインスタンド前(本部前)は走幅跳の競技中の競技者のみ通行することができる。
 - (6)投擲種目の練習はできない(メディシンボールでの練習も不可)ので、競技開始前に各ピットで競技役員の指示により行う。
- 5 招集について
 - (1)招集所は第1ゲート（100mゴール付近）に設ける。
 - (2)参加の招集は本人が行い、時間に遅れた者は棄権とみなし、出場を認めない。
 - (3)招集開始時刻及び招集完了時刻は当該競技開始時刻を基準とし、次のとおりとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	30分前	20分前
フィールド競技	40分前	30分前
棒高跳	70分前	60分前

- (4)出場する競技者は招集開始時刻から招集完了時刻の間に招集所の競技者係に、種目、組、レーンを伝え、チェックを受ける。その際、腰ナンバーカードを受け取る。腰ナンバーカードを受け取っただけでは、招集が完了していないので注意する。
- (5)招集を受けたら、各種目のスタート付近やピットに速やかに移動し、競技開始前に最終コール(点呼)を受ける。
- (6)他の種目を同時に兼ねて出場する競技者は、競技者係(招集所)に事前に申し出て、指示を受ける。

6 競技について

(1)靴の規定について (TR5.2)

- ①日本陸上競技連盟競技規則に準じ、靴底の厚さは以下の範囲内とする。

トラック種目 (ハードル種目を含み、800 未満の種目) 20mm	フィールド種目 (三段跳) を除く 20mm
トラック種目 (障害物競走を含み、800m 以上の種目) 25mm	三段跳 25mm

- ②競技中に競技者の使用している靴が競技規則を遵守していないと審判長が疑義を抱いた場合、試技終了時に靴の提出を求め、規則に適合していなければ失格とする。

- ③スパイクピンは全天候用の物を使用し、トラック・フィールドともに 7mm以下を使用すること。ただし、走高跳は 12 mm以下の物を使用する。
↑豊川市陸上競技場の利用規則

(2)トラック競技について

- ①スタートは、全てのレースで合図を英語とし、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
- ②短距離種目(ハードルを除く)についてはブロック合わせのみとし、スタート練習はしない。
- ③400mまでのレーン使用の競技では、フィニッシュ後も他の競技者の安全のために、自分に割り当てられたレーン(曲走路)を減速し止まる。

(3)フィールド競技について

- ①走幅跳、投擲競技における試技3回の記録の上位8名はさらに3試技を行い、順位を決定する。
- ②走幅跳と砲丸投の1回目の試技が無効試技でない場合は、全て計測する。2回目以降は以下の計測ラインを設け、計測ラインに満たない試技は無効試技とする。ただし、天候等の条件により、審判長により変更されることもある。なお、円盤投は計測ラインを設けない。

	男子	女子
走幅跳	4m70	3m70
砲丸投	6m00	7m00

③バーの上げ方

- ・男子走高跳の最初の高さは1m30とし、以後は5cmずつ上げていく。
 - ・女子走高跳の最初の高さは1m20とし、以後は5cmずつ上げていく。
 - ・走高跳の最初の高さは、天候等の条件により、審判長により変更されることもある。
 - ・棒高跳の最初の高さは、跳躍審判員で協議し、フィールド審判長が決定する。
- ④トラック競技とフィールド競技が重なった場合、競技審判に申し出てトラック競技を優先すること。原則としてトラック競技出場後にフィールド競技に戻った時点のラウンドの試技から続けることとする。
- ⑤砲丸投と円盤投の投擲物は、競技場備え付けの物を使用する。
- ⑥競技終了後は、自分の助走マーカを必ず片づける。

7 選手及び学校・団体関係者はスマートフォン、ビデオ等の情報通信機器類を招集所・競技場所に持ち込むことはできない。撮影については以下を参照のこと。

写真・ビデオ撮影及び携帯電話・スマートフォンの使用について

- (1) 選手の人権保護・肖像権保護のため、競技会における写真・ビデオ撮影について、ご理解とご協力をお願いします。各校に關係する団体等が撮影を希望する場合は、必ず本部で許可を得ること。
- (2) グラウンドレベルでの携帯電話・スマートフォンの使用については、選手・マネージャー・顧問・保護者を問わず、禁止とする。

〈観客席からの撮影制限〉

1 観客席での撮影を禁止させていただくエリアは下記の席です。

- ◆各種目のスタート後方
- ◆走高跳、走幅跳、棒高跳の助走後方・着地前方
- ◆走高跳マットに向かった正面(クリアランス動作中)

2 保護者および本人の了解がない撮影を禁止します。

3 選手がスターティングブロックの足あわせをしたり、試技を待っていたりする間や、体を動かしているなど準備の行動は撮影を禁止します。

4 他者に著しく迷惑をかける行為であると主催者が判断した場合は、速やかに警察および関係機関に連絡をとります。

8 各種目3位まで賞状を授与する。

学校・団体申込の選手の賞状は、代表者が団体分をまとめて本部で受け取る。

9 大会における傷害については主催者が応急手当は行うが、その後は各学校・団体で対処すること。

また主催者は責任を負わないものとする。

10 その他

- ・競技者及び引率教員の競技場への出入りは第1または第4ゲートのみとし、スタンド下の入り口は利用しない。グラウンドに降りられるのは競技者及び競技役員のみで、応援はメインスタンドおよび芝生スタンドなど、柵の後方のみとする。
- ・競技場には記録は掲示しない。WEBで確認すること。
- ・貴重品類の管理は各自で行い、盗難等に注意すること。
- ・競技場の周りにテント及びシートを設置することは認めない。
- ・ごみは各自で持ち帰ること。
- ・当日の天候や気温の状況等を鑑み、その種目に出場する競技者の招集が完了し、競技が始められる状況であれば、競技日程に示されている時刻よりも早く競技を始めることがある。
- ・この競技注意事項に記載されていなくても、主催者が必要と判断した場合、その指示に従うこととする。